

**大塚金之助** 経済学者、歌人。戦前戦後を通じて、ヒューマニズム・民主主義・平和の灯を掲げ続けた不屈の思想家。

おおつかぎんのすけ

大本教・・・1892 = 東京神田で、建築家大塚富士吉の長男に生まれる。母とみ。

**日清戦争始**・1894 = 2歳 :

父の仕事に従い、東京各地をはじめ、北は盛岡から西は神戸までいくつかの小学校を転校して、  
**田中正造直訴1901 = 9歳 :**

**日露戦争始**・1904 = 12歳 : 神戸中学校に入学。植物採集に興味を持つ。

**日露戦争終**・1905 = 13歳 :

**伊藤博文暗殺**1909 = 17歳 : 卒業。

韓国併合・・・1910 = **18歳** : **神戸高等商業学校に入学。**

坂西由蔵の経済史研究室で学び、講演部に入る。

**明治天皇没**・1912 = 20歳 :

{学友会報}にエンマ・ゴールドマンに関する論文を発表したため、会報は学校当局によって没収され、自身は特待生の資格を奪われた上、以後の講演部活動は事前検閲を受ける。

**第一次大戦始**1914 = 22歳 :

卒業論文「"スラブ人"の原始所有権」をもって、**卒業。**

専攻部貿易科に進み、**福田徳三のゼミナールに入り、苦学して、**

民本主義・・・1916 = 24歳 :

卒業論文「村落団体に關スル学説ノ研究」をもって、**卒業。東京高等商業学校講師嘱託となり、**

**ロシア革命**・1917 = 25歳 :

講師を経て、**教授に昇格。**

本格政党内閣1918 = 26歳 :

文部省より、経済学および商業学研究のためのアメリカ留学が発令され、

**ハルビン条約**・1919 = **27歳** :

マーシャル「経済学原理」の部分訳発表後、**渡米。ニューヨークのコロンビア大学に入学、**

大暴落・・・1920 = 28歳 :

留学中、大学昇格実現し、東京商科大学付属商学専門部教授となる。追加発令で、ロンドン大学経済学部に  
移り、Royal Economic Societyの終身会員となる。**フランスを経て、スイスから、ベルリン大学に移る。**

**原敬首相暗殺**1921 = 29歳 :

水平社結成・1922 = 30歳 :

母校のため、ドイツ留学中の同僚らと、ウィーン大学のカール・メンガーの蔵書購入のために尽力。  
この間、ドイツ各地を旅行するなどして、

護憲三派圧勝1924 = 32歳 :

**\*帰国。東京商科大学助教授、**

治安維持法・1925 = 33歳 :

末亡人の許可を得て、**マーシャル「経済学原理」の翻訳を発表し始め、**

円本時代始・1926 = 34歳 :

**全4巻を完成。マルクス研究に入り、**

金融恐慌・・・1927 = 35歳 :

**東京商科大学教授となり、翌年にかけて機関誌(商学研究)編集委員。**

共産党事件・1928 = **36歳** :

マーシャル「経済学原理」の改訂廉価版を出版。**第1回普通選挙に際して労働農民党を支持し、演説・資金援助したのを始め、諸運動の支援・協力を奔走。各種の雑誌に寄稿し、単行本やパンフレットの発行にも関与  
ヴァルガ「世界経済年報」の経済批判会訳を監修し、発表し始める。**

**満州事変**・・・1931 = 39歳 :

石川秀子と結婚。国際消費組合デーを記念して、東京各地で講演。「世界経済恐慌と国際消費組合」。

五一五事件・1932 = 40歳 :

「世界資本主義発達史文献解題」。**唯物論研究会創立と機関誌発刊に尽力。ロシア大使館のお茶会に出席。**

国際連盟脱退1933 = 41歳 :

伊豆湯ヶ島温泉で、「経済思想史」執筆中、**\*日本共産党に資金を授助した疑いで逮捕され、休職。懲役2年執行猶予3年の判決が確定し、失官。以後いかなる官・公職につきことも禁じられる。**

**日中戦争始**・1937 = **45歳** :

アララギ派の歌人としても知られ、歌を詠むなどして過し、自由律に移行して行く。

**日米開戦**・・・1941 = 49歳 :

**敗戦**・・・1945 = 53歳 : 敗戦となり、**\*東京商科大学改称した東京産業大学に教授として復学。**

新憲法公布・1946 = **54歳** :

新憲法施行・1947 = 55歳 :

歌集「朝あけ」出版。東京産業大学から改称の東京商科大学経済研究所長(翌年まで)。

三大事件・・・1949 = 57歳 :

経済学史学会の創立とともに、幹事となる。**岩波新書の再開第1号「解放思想史の人々」を出版。**

**朝鮮戦争始**・1950 = 58歳 :

日本経済学会連合が創設され、評議員となる。福田徳三没後20周年記念講演。**日本学士院会員となる。**

**独立回復**・・・1951 = 59歳 :

**テレビ放送始**・1953 = 61歳 :

以後2年、一橋大学評議員。東京商科大学から改称された一橋大学教授となる。

自衛隊発足・1954 = 62歳 :

社会政策学会に入会。翌年にかけて、学術奨励審議会委員。

**55年体制始**・1955 = **63歳** :

「現代思想全集第25巻(小倉金之助・大塚金之助・上原専祿集)」が刊行される。

国連加盟・・・1956 = 64歳 :

**\*一橋大学教授を停年退官、名誉教授となる。**

ひきつづき一橋大学講師、別に慶応義塾大学講師。ローマで開催の国際国際経済学界に日本代表として出席  
ひきつづきケルンの社会政策学会に出席、アムステルダム国際社会史研究所視察。

なべ底不況・1957 = 65歳 :

明治学院大学教授。

**安保闘争**・・・1960 = 68歳 :

**東京初光** 1964 = **72歳** :

**石油ショック**1973 = **81歳** :

JALハイジャック・1977 = 85歳 :

**学士院会員のまま、没した。**

没後に、歌集「人民」。

一橋大学論叢(津田・内田) ,